

香川大学教育学部 附属教育実践総合センターニュース

No. 36

平成 24 年 9 月 28 日発行

目 次

特集 平成 24 年度 教育実践総合センター事業について	1	学部教員と附属坂出小学校教員との 合同研究集会 報告	6
平成 24 年度 教育実践総合センター事業計画	2	退任のご挨拶	6-7
研究プロジェクト 1. 平成 23 年度実施報告	2-3	着任のご挨拶	7-8
2. 平成 24 年度概要(計画)	4	教育実践総合センター 活動報告	8-9
第 1 期(4~6 月) 教育実践集中講座 実践報告	4	寄贈図書	9-10
附属坂出中学校 教育研究発表会 報告	5	教育実践総合研究第 26 号 原稿募集	10

特集 平成 24 年度 教育実践総合センター事業について

センター長 七條 正典



郊外の秋

平成 24 年度の第 1 回管理委員会が 7 月 5 日(木)に開かれ、平成 24 年度の予算案ならびにセンター事業計画等が承認されました。センター事業の内容はほぼ例年通りですが、その主要な一つの柱である研究プロジェクトについては、昨年に引き続き「教職実践演習プログラムの開発と実施に関する研究プロジェクト」をテーマとして取り組みます。現在、教員養成においては、教師としての実践的な指導力を育成すること、すなわち、その質保証がこれまで以上に強く求められています。本研究プロジェクトでは、学部と附属学校園の教員の連携・協力とともに、教員養成・研修の一体化の視点から香川県教育センターの先生方のご協力も得ながら取り組むことにより、より充実した「教職実践演習」のプログラムの開発と実施の在り方について研究協議を進めていきたいと考えております。

また、本年度は、客員教授として、昨年度に引き続き香川県教育会館理事長の好井貞夫先生と、新しく香川県教育センター主任指導主事の牧野雅弘先生にお願いし、教育実践講座等を担当していただくことになりました。すでに 4 月～6 月には、第 1 回教育実践集中講座を担当していただき、教育法規、学校経営、学級経営、生徒指導等、具体的事例を取り上げながら学生に対してわかりやすいご指導をいただきました。また、教員採用を前にした 4 年生に、模擬面接や模擬授業等、具体的で実践的なご指導をいただきました。

さらには、本年度の公開講演会は 3 回の開催を予定しております。いずれも教育委員会や学校現場・大学の研究機関等との連携を図りながら、学校を中心とした教育関係者に役立つ公開講演会となるよう、企画運営に取り組んで参りたいと考えております。

これら本センターの事業においては、本年度もこれまで以上に、香川県教育委員会や香川県教育センター及び附属学校園との連携・協力による研究の推進に努めて参りたいと考えております。どうか本年度もセンター事業の運営・推進にご支援・ご協力のほど、よろしくごお願い申し上げます。

平成 24 年度 教育実践総合センター 事業計画

- I 研究プロジェクト
教職実践演習プログラムの開発と実施に関する研究プロジェクト
- II 指導プロジェクト
 - 1. 教員養成
 - (1) 「教育実践演習」「教育実践基礎演習（フレンドシップ事業）」
 - (2) 教育実践集中講座
 - 2. 教員研修
教員研修に資する研究会の開催及び研修会における指導・助言等
 - 3. 教育相談
 - (1) 教師のための相談活動（学習指導、生徒指導等）
 - (2) 教育相談活動
 - (3) 教職志望学生に対する学内相談体制の整備
 - 4. 共通教育・学部・大学院関連授業科目及び卒論・修論指導
- III 教材・資料の収集・管理・共同利用
 - 1. 研究資料（他大学からの研究紀要等及び香川県教育委員会関連出版物）等の収集・管理
 - 2. 教材、機器等の共同利用のための物品などの整備
 - 3. 特殊装置の有効利用のための整備
 - 4. 学習コンテンツの開発・収集
- IV 研究活動の報告等
 - 1. 「香川大学教育実践総合研究」の編集
 - 2. 教育実践集中講座資料集の発行
 - 3. フレンドシップ事業実施報告書の発行
- V 広報活動
 - 1. インターネットのサイト（ホームページ）の更新・管理
 - 2. センターニュース（年2回）
 - 3. 教師教育用映像情報のVOD配信サービス
 - 4. パンフレット・リーフレットの改訂・発行等
- VI 講演会・研究会等の開催
 - 1. 公開講演会
 - 2. 教育実践総合センター研究会
 - 3. その他
- VII 関係機関との連携
 - 1. 研究プロジェクト・指導プロジェクトに関わる関係機関との連携
 - 2. その他 地域の各機関との連携
 - (1) 香川県教育委員会
 - (2) 香川県教育センター
 - (3) 高松市総合教育センター 等

研究プロジェクト

1. 平成 23 年度 実施報告

教職実践演習プログラムの開発と実施に関する研究プロジェクト

平成 23 年度より「教職実践演習プログラムの開発と実施に関する研究プロジェクト（2年間）」をスタートさせました。設定趣旨は、以下の通りでした。

平成 18 年「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（中教審答申）の改革の具体的方策の一つとして「教職課程の質的水準の向上」があげられ、その中で「教職実践演習」（仮称）の新設・必修化が示され、平成 25 年度からその全面实施が求められました。

「教職実践演習」設置のねらいは、①教職課程の授業科目の履修や教職課程以外での様々な活動を通して学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標に照らして確認することです。そして、②学生自身が、将来教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や経験を補い、その定着を図ることです。

このことに関して、本学ではすでに平成 21 年度に課程認定を受け、その実施に向けて、平成 22 年度生から「教

職概論」において「学びの履歴」を配布するなど準備を進めてきたところです。しかし、「教職実践演習」の授業自体については、シラバスの案は策定しているものの、具体的な実施内容、及び実施体制に関しては未確定であり、早急な内容の検討と体制の構築が求められています。

そこで、本研究プロジェクトでは、上記の「教職実践演習」のねらいに即した実施内容及び実施体制の在り方について、学内外における先行研究の成果を踏まえ検討するとともに、試行を通して、有効なプログラムの開発を行うことを第一義としています。その際、「教職実践演習」の特質から考えて、本授業科目を中心としながらも、入学時から卒業時までの4カ年を見通した教員養成カリキュラム全体の改善についても視野に入りたいと考えています。

本研究プロジェクトは、学部教員や附属学校園教員、香川県教育センターの先生方の参加を得て、27名による研究体制となりました。研究プロジェクト会合は学内委員のみによる2回を含め、計9回開催されました。

5月27日の第1回会合では、設定趣旨の確認を行い、今後の研究の進め方を確認しました。第2回会合では、先行研究のレビューとして、教職実践演習に関わる学内の研究（前回のセンター研究プロジェクト及び「追跡調査」）と他大学の研究論文や先行実践を確認しました。それらを受け、また学内のコアカリキュラム委員会での検討課題も踏まえつつ、「教職実践演習」の実施内容や実施体制を検討し、具体化していきました。授業内容として、「教育課題の探究」「授業づくり」「学級経営」「生徒指導等」の大きく4つの柱を立て、それぞれの内容と授業実施案の策定を進めました。第6回会合での確認を経て、11月には、それぞれ2校時分（90分×2回）の試行授業を実施しました。各授業後には、学生と授業参観教員に質問紙調査を実施しました。

第8回会合では、アンケートのデータを分析し、授業内容や実施体制を改善していくための視点を明らかにしました。第9回会合では、再度、4つの授業の改善視点を確認するとともに、「フィールドワーク」型の授業の在り方についての検討も行いました。次年度へ向けた課題（下掲【今後の課題】）を確認し、研究の進め方について検討を行い、本年度の会合を終了しました。研究成果については、学内の「教職実践演習開設WG」へ提供することができました。

【今後の課題（要点）】

- ①現場へ入った時に役立つような授業となるよう、さらなる内容の改善充実を図る。
- ②現場でしか身につかないものもあるので、この授業だけで自己完結しようとしめない。
- ③丁寧な指導が試みられたが、学ぶ側の学生の主体性を考える必要がある。
- ④評価の視点（「学びの履歴」）から、授業内容の改善充実に向けてさらなる検討を行う。
- ⑤教職につかない学生への対応をどうするか、検討する必要がある。
- ⑥授業を実施する際のグループ分け（課題別・校種別等）について検討する必要がある。

<参考> 平成23年度 研究プロジェクト会合（9回実施）の概要

- | | | |
|-----|---------------------|--|
| 第1回 | 平成23年5月27日（金） | ・研究プロジェクトの設定趣旨について
・研究プロジェクトの進め方について |
| 第2回 | 平成23年6月24日（金） | ・学内外の先行研究の検討について
・研究プロジェクトの進め方について |
| 第3回 | 平成23年7月27日（水） | ・「教職実践演習」の実施内容及び実施体制の在り方について |
| 第4回 | 平成23年8月25日（木） | ・「教職実践演習」の実施内容及び部分試行の具体化について
・「教職実践演習」の実施内容の「フィールド」の実施について |
| 第5回 | 平成23年9月21日（水）（学内委員） | ・「教職実践演習」の部分試行に向けて－実施内容及び実施体制等（案）－ |
| 第6回 | 平成23年10月28日（金） | ・「教職実践演習」の部分試行の実施について
・今後の進め方について |
| 第7回 | 平成23年12月7日（水）（学内委員） | ・「教職実践演習」部分試行授業の分析・検討について |
| 第8回 | 平成23年12月15日（木） | ・「教職実践演習」部分試行授業の分析・検討について
・今後の進め方について |
| 第9回 | 平成24年1月19日（木） | ・「フィールドワーク」について
・来年度全面施行に向けての実施体制について
・本年度のまとめと来年度の研究の方向について |



2. 平成 24 年度 概要 (計画)

平成 24 年度の研究プロジェクトには、あらたに 1 名の参加者を得ることができ、28 名の研究体制となりました。前年度のおわりに確認された課題を検討しつつ、またコアカリキュラム委員会を中心に進められる「教職実践演習開設WG」や「授業担当者会議」における教職実践演習の進め方との関連も踏まえて、本年度の研究プロジェクトが進められることになります。

6 月 28 日の第 1 回会合では、再度、前年度の研究成果を総括するとともに、それ以降に修正された授業実施案が提出され、検討を行いました。また、「開設WG」から出された「『教職実践演習』開設に向けて」が示され、学部での本年度の進め方、4 つの授業について課題別ルーブリックを作成していくことを共通理解しました。それに合わせて、研究プロジェクトの進め方を確認しました。

9 月 6 日の第 2 回会合では、第 1 回会合で指摘された点を踏まえて修正がなされた、課題別ルーブリックが添付された各授業実施案が示され、研究プロジェクトとしての最終検討を行いました。この実施案は、「開設WG」「授業担当者会議」での確認を経て、10 月から「教職実践演習」の全面試行が行われます。

本研究プロジェクトでは、今後、教職実践演習の授業後に質問紙調査を実施し、内容・評価・体制等についての分析及び改善案の検討を行っていく予定です。

(文責：山岸知幸)

第 1 期 (4~6 月) 教育実践集中講座 実践報告

教員への道 助走からスタート ～本気で「教師」を目指す～

附属教育実践総合センター客員教授 牧野 雅弘

第 1 期の集中講座の中では、生徒指導に関わる法規や通知、県の施策などを取り上げて演習形式で進めていきました。

【第 1 回】6 月 2 日 (土) 現場の法規ケーススタディ 生徒指導①

「学校教育法 11 条」、「学校教育法施行規則第 26 条」、「問題を起こす児童生徒に対する指導について (H19 年 文部科学省通知)」などを取り上げて、体罰・懲戒・出席停止について具体的な場面を想定しながら、判例等をもとに考えました。

【第 2 回】6 月 9 日 (土) 現場の法規ケーススタディ 生徒指導②

「不登校への対応の在り方について (H15 文部科学省通知)」、「いじめの問題への取組の徹底について (H18 文部科学省通知)」、「先生、見逃さないで 子どもが示すシグナルを (H17・19 県教育委員会)」などを取り上げ、いじめ・不登校問題について考えました。さらには、「いじめの早期発見・早期対応の実際」として学校生活の場面ごとに具体的な観察の視点や指導の在り方について演習しました。

【第 3 回】6 月 16 日 (土) 現場の法規ケーススタディ 生徒指導③

「児童虐待の防止等に関する法律」、「学校等における児童虐待防止に向けた取組の推進について (H18 文部科学省通知)」、「学校における携帯電話の取り扱い等について (H21 文部科学省通知)」さらには全国的統計や本県の現状を紹介しました。また、生徒指導提要をもとに校則の内容や運用について考えました。

第 1 期は昨年と同様、「教員への道 助走からスタート」と題し、教育法規を取り上げながら生徒指導について考えました。どの講義においても学生同士が協議する場を持ちましたが、教員採用試験を目前に控え、どの学生も真剣そのものでした。

卒業して現場に出ると、生徒指導上の問題に出会う場面が多々あります。そのような中で表面に見えるものだけに惑わされず、その根っこにある生徒指導の大原則を見失わない心構えがあればどんなことがあっても乗り切っていくことができると信じています。

今の助走が、きっと、いいスタートにつながるでしょう。



附属坂出中学校 教育研究発表会 報告

研究テーマ

「学ぶこと」と「生きること」の統合 — かかわり合う中で、自己の学びをつむぐ —

香川大学教育学部 附属坂出中学校

1 研究会の概要

本校では、「学ぶこと」と「生きること」を統合すべく、自立した学習者を育成するためのカリキュラムの再構築に着手し、総合学習としての「シャトル学習」や「CAN」を核とする探究的な学び方を身につけさせるカリキュラム構想の具現化に向けて取り組んできました。特に今回は、生徒個々の学びの特性に注目し、学習者自身にとっての学びの意味や価値を実感させるための対話と内省を促す教師のかかわり方に焦点をあてた実践研究を重ねてきました。

去る6月1日の教育研究発表会では、県内外から600名を超える参加者をお迎えし、研究の一端を17本の公開授業を通して発信しました。各授業では、質の高い対話や内省を促す教師のかかわり方や、内省したことを表出させるための手立てなどについて提案しました。さらに探究スキル習得のためのシャトル学習「特設講座」、質問中心の会議で総合学習「CAN」で起こる問題への解決の糸口を探る「AL会議」などの公開を通して、生徒が自立して学ぶことができるための新しい授業のあり方についても提案しました。

また、「新しい時代の授業づくり」について、シンポジウムを通して参観者の方々と考えました。松村暢隆先生(関西大学文学部教授)からは、認知的個性に着目した「個性を活かす学び」について、石井英真先生(京都大学大学院教育学研究科准教授)からは、教科の本質に迫る「真正の学び」について、山本茂喜先生(香川大学教育学部教授)からは、交流の中で協同で問題を解決するための「質の高い対話」について、伊藤裕康先生(香川大学教育学部教授・本校校長)からは、アイデンティティ形成を図る手立てとしての「物語り」についてお話しいただき、次代の授業とはどのようなものか、その具現化はどのようにすればよいかについてご示唆をいただきました。

記念講演では、角屋重樹先生(国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部部長)から「真の学力向上と問題解決過程」という演題でご講演をいただきました。真の学力について、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の能力の育成」「学習意欲の向上」の三つの観点から説明をいただきました。そのような学力を育むための問題解決過程の具体について、実践例を交えながら教えていただくことができました。

2 成果と課題

参観者の方々からは、「今日の教育課題解決のための様々な取り組みが提案されていた。」「論が走り過ぎず、実践的な研究だった。」「教師が強い意志と見通しを持ち、ファシリテータ役に徹していた。」「などの声をいただきました。また、生徒たちが自ら対話し内省する姿にも高い評価をいただきました。今後は、より質の高い振り返りの具現化に向け、さらに研究を進めたいと考えます。

(文責：中西健三)



【質の高い対話を促す教師のかかわり】



【内省したことを表出させるための手立て】



【シンポジウム『新しい時代の授業づくり』】



【真の学力向上とは人間性を高めること】

学部教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会 報告

平成 24 年 6 月 4 日（月）に、香川大学教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会が開催されました。附属坂出小学校では、平成 15 年度より「思考力」に着目し、そこに特化した継続的な実践研究が進められてきています。昨年度までの 3 年間には、すでに報告があったように、メイン研究テーマを「知の更新をめざした『思考力』の育成」とし、研究成果を積み重ねてきています。それを受け、本年度からは、「『思考力』を育成するユニバーサルデザインの授業づくり」をあらたな研究テーマとして設定し、展開していこうとしています。

当日は、第 1 学年西組の算教科「かずをわけてみようー『いくつといくつー』」の授業が公開されました。本実践でねらう「思考力」の育成には、思考に必要な要素として「経験の想起」及び「知識・技能」が必要となります。しかし、単元前の実態把握から、それぞれについて、児童の「つまづき」があることが明らかになりました。そうした実態を踏まえ、単元構成の工夫がなされていました。本公開授業での学習指導過程においても、具体的な工夫が多々見られました。生き生きとした表情で授業に参加する児童の姿が印象的でした。



授業参観後、本年度の研究についての説明及び授業討議（附坂小型リフレクション）が行われました。

本年度の研究の概要では、これまでの研究の経過や成果が説明され、「ユニバーサルデザイン(UD)」に着目するに至った必然性が示されました。本年度の重点としては、思考の連続的側面に着目し、「単元構成」と「本時の学習指導」の両側面から追究していくことが示されました。その上で、研究内容についての詳細な説明がありました。

その後、付箋紙を用いた授業討議が行われました。「思考力の設定が適切であったか」「『思考力』を支える要素が適切であったか」「UD（単元・本時）が要素に対してどのように働いていたか、また『思考力』の育成につながっていたか」を主とした視点とし、討議が進められました。その中では、抽出児の学びの様子も把握しながらの丁寧な討議が行われました。

「ユニバーサルデザイン(UD)」という視点は、教育実践研究において今後ますます重要になっていきます。附属坂出小学校教員と大学教員との協働で、この視点から実践研究を深めていくことの大きな意味と可能性を感じさせられた合同研究集会となりました。



（文責：山岸知幸）

退任のご挨拶

■ つながる、つなげる

香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 大林克暢
（前・実践センター客員教授）

平成 23 年度、実践センターの客員教授をさせていただきます。皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。教育実践演習では、教育実習を終えたばかりの興奮冷めやらぬ学生さんと教職の素晴らしさと難しさについて考えながら、同僚として一緒に勤めることを想像して刺激を受けました。また、道徳や生徒指導では、県の施策を紹介させていただくこともできました。ここで得たつながりを大切にしたいと思っています。

本年度は、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携担当をさせていただきます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 4 年間、お世話になりました

さぬき市立津田中学校長 山下隆章（前・実践センター企画委員）

人事交流教員として香川大学で過ごした 4 年間（H20 度～H23 度）は、あっという間に過ぎていったと感じています。その間、教育実践総合センターとともに、教職を目指す学生の成長を目指して関わりを持ってきたことが思い出されます。着任 1 年目、大洲での「教育実践基礎演習」は、学生に児童とのふれあい以上に安全管理の意識づけを試みました。プロジェクト研究では、教育実習の在り方について附属学校の諸先生方と熱い議論を交わしました。特に後半 2 年間は、企画推進委員として奉職させていただき、必修化される「教職実践演習」の授業をどう進めるか、理論・先行研究を学び、試行するなかで、「教師として求められるものは何か」を確認させていただきました。

中学校現場に戻り、改めて「基礎・基本」の大切さを感じています。「何を伝えるか」が明確でなければ、「どう伝えるか」を生かすことはできません。学生が、教育の本質を見据えた教員として巣立っていくことを祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。

■退任のご挨拶

毛利 猛（前・附属高松中学校長）

本年3月末をもって、附属高松中学校長の任を終えました。在任中は、多くの方々から様々なかたちでご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。私が本校に着任して感心したのは、最も「進んだ学校」であると同時に、最も「懐かしい日本の学校」としての本校の在り方でした。「国立大学附属学校の新たな活用方策等について」が言うところの「地域のモデル校」とは、だいぶ意味合いが異なりますが、附属高松中学校は、次の二つの意味で、「地域のモデル校」としての役割を果たしています。一つは、附属高松中学校が、地域において教育の最新モデル、現代モデルを示せる学校であるという意味。もう一つは、地域において日本の学校教育のオールドファッション、変わってはならない教育のあるべき姿をとどめ、これを不易のモデルとして示せる学校であるという意味です。

「古くて、新しい学校」「どこか懐かしいけれども、一番進んでいる学校」である附属高松中学校のますますの発展を祈りつつ、退任のご挨拶とさせていただきます。

■校長職

柳井 修（前・附属坂出中学校長）

2年前の2月の教授会で、何の前触れもなく突然校長に選出されたことは、私にとってまさに青天の霹靂でした。早速小学校長の経験者でもある義母から『校長 365日』という本を借りて、「朝礼」や「挨拶」に備え、また娘達から、中学時代の学校生活について改めて聞き、生徒達への対応の仕方なども教わりました。心は緊張と不安で今にも崩れそうでしたが、精一杯の笑みを作って門をくぐったことは忘れもしません。

ところが、そんな心配は全く杞憂でした。先生方、生徒達とは、いつも弾んだ挨拶と会話が飛び交い、学びや様々な活動においても、常に目的を定めて意識の向上を図る工夫と努力が不断に続けられています。この程よい緊張感は、逆に気持ちが良いもので、仮に躊躇する事が起きても、この気持ちよさに押されて前向きになれるのですから、不思議です。

その他、附属学校は地域や全国的な組織との連携も密ですので、大学では体験できない出会いや学びも実に豊富です。

校長職は、教育学部での奉職に一層の輝きとしなやかさを増してくれる職種であると断言させて頂くと同時に、計り知れないご支援を頂いたことに心より感謝申し上げます。

■4年間お世話になりました。

香川県立壺学校教頭 武田光弘（前・附属特別支援学校 副校長）

緑豊かな自然に囲まれた附属特別支援学校で、とても充実した4年間を過ごさせていただきました。明るく元気な子どもたちから、毎日パワーをもらって、教育という仕事の大切さと真摯さを改めて実感した日々でした。また、先生方の献身的な取り組みにはいつも頭の下がる思いでした。限られた人数の中、次々と指導、研究、行事と一つとして手を抜くことなく常により良い改善に向けて取り組まれる姿に附属魂を感じさせていただきました。特に全国に向けて発信された、在任中2回の研究発表大会はとても素晴らしい思い出です。今回初めて聴覚障害のある子どもたちの学校に勤務することになりました。子どもたちと早くコミュニケーションできるように毎日手話の特訓中です。最後になりましたがこれからの附属のますますの発展を心からお祈りいたします。本当にありがとうございました。

着任のご挨拶

■羽ばたけ、未来へ！教育実践総合センター

実践センター客員教授 牧野雅弘

この度、母校である香川大学に実践センター客員教授として勤めることになりました。現在の本業は県教育センターで研修を企画・運営することですので、学生達の前に立って教職教養に関する内容について講義することにはあまり違和感を感じませんでした。しかし、いざ教壇に立つと予想以上に学生達のまなざしが眩しく、私の問いかけへの反応も新鮮で、教員への研修とは違った緊張感を感じています。

今後一人でも多くの香大生が教員となり、日本の将来を担う子どもたちの教育に携わっていくことを大いに期待しています。

■企画推進委員 着任のご挨拶…

香川大学教育学部 准教授 山下真弓

大学と県教委との人事交流により教育学部に赴任した当初、学生時代にタイムスリップし、こみ上げる懐かしさと教員に採用されたときに抱いた志を鮮明に思い出しました。構内を歩けば、楯をはじめとする様々な樹木の成長ぶりに感動し、教室をのぞけば、ハイテクが整備された教育環境に驚き、時の流れと自分の使命を強く感じました。

あれから3年。高度な専門研究をされている先生方や多くの後輩たちに出会い、たくさんの学びをいただきました。今年度は、教員になるための総括と言われる「教職実践演習」の授業作りに参画しています。本センターは、この事業の中心です。他にも様々な教育実践に関する研究や指導を推進しています。このようなセンターの企画推進委員を拝命したことをしっかりと自覚し、微力ながらも心を込めて取り組んで参りたいと思っております。どうぞ、よろしくごお願い申し上げます。

■校長着任挨拶

附属高松中学校長 野崎武司

平成 24 年 4 月、附属高松中学校の第 16 代校長として着任しました。先人の築き上げたよき伝統を発展・継承すべく尽力していきます。

中学生が何かにひたむきに打ち込む姿はとても刺激的です。また附属学校教員の情熱と仕事ぶりにはいつも元気をもらいます。また P T A や後援会の皆さんなど、実に数々の方々とは知り合いになりました。一気に生活世界が拡大しました。気分的にもかなり若返ったように思います。

広く教育界は混迷の中にあります。先日の朝日新聞で、著名な経営学者、野中郁次郎は、現場感覚をトップへ還流させる仕組み作りが組織の成否を分けると述べていました。これは、日本の大企業の課題として、提示されたものでしたが、教育界にも通じることです。校長職に就いたことを、学校教育現場に隣接する大きな好機として捉え、現場感覚をしっかり踏まえながら、今後の様々な課題に対処していきたいと考えています。皆様、よろしくご協力ください。

■三つのミッションのもと、先生方と希望を紡ぐ教育の営みができたらと思います

附属坂出中学校長 伊藤裕康

附属坂出中学校に着任し、本校とそこに集う教員には三つのミッションが与えられていると感じるようになりました。その一つ目は、生徒から憧れの大人と見られることです。二つ目は、地域の先生方から憧れの先生と見られることです。三つ目は、地域の学校から憧れの学校と見られることです。ところで、3.11 以降の教育者に求められることを考えてみますと、アラゴンの言葉「教えるとはともに希望を語ること、学ぶとは誠実を胸に刻むことである。」が浮かびます。このような時だからこそ、希望を紡ぐ教育が求められるのではないのでしょうか。2004 年 3 月 19 日発行の「附属坂出学園だより No. 17」に、「私には附属がある香大は魅力的」と記しましたように、私にとって魅力的な場所である附属坂出中学校で、先生方と希望を紡ぐ教育の営みができたらと思います。先生方と希望を紡ぐ教育ができましたあかつきには、先の三つのミッションが達成できることと思います。どうぞ、よろしく願います。

■皆様とのご縁を感じながら

附属特別支援学校 副校長 伊藤宏美

少し小高い所に位置する本校から眺める風景が、私は大好きです。綾川沿いの四季折々の美しい景色と、鉄橋を渡る電車、そして小鳥や虫たちの鳴き声。こんな素晴らしい自然の中で、毎日一生懸命に学習している子どもたちに再会できたことに感謝しながら、本年 4 月から再び本校で勤めさせていただいています。香川大学に関係の皆様との不思議なご縁を感じています。

本校では、子どもたちの将来を見据え、「授業づくり」に視点をおいて日々研究に取り組んでいます。障がいの種類や程度は異なっても、きらきらと瞳を輝かせながら自分の思いを様々な形で表現しようとする子どもたちの姿には学ばせていただくことが多く、教育のもつ意味や大切さを改めて考えさせられています。これから先も、子どもたちの明るい笑顔がずっとずっと続くように、微力ながらも努力していきたいと強く思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

■ごあいさつ

実践センター事務補佐員 千葉真里

平成 23 年 11 月より教育学部附属教育実践総合センターの事務補佐員に着任しました千葉真里と申します。初めての業務で不慣れなことばかりですが、センター運営に貢献できるようひとつずつこなしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

教育実践総合センター 活動報告 (2012/04~09)

4月11日(水)	第一回フレンドシップ事業実施専門委員会
4月12日(木)	教育実践演習オリエンテーション
4月18日(水)	フレンドシップ事業オリエンテーション
4月19日(木)	教育実践演習第一回全体指導
4月23日(月)	第一回専任会議
4月26日(木)	教育実践集中講座(第一期1回目)
5月9日(水)	フレンドシップ事業事前研修
5月17日(木)	第一回企画推進委員会
5月21日(月)	教育実践集中講座(第一期2回目)
5月28日(月)	第二回専任会議
6月2日(土)	教育実践集中講座(第一期3回目)
6月2日(土)	~3日(日) フレンドシップ事業野外教育体験活動(香川県立五色台少年自然センター)
6月9日(土)	教育実践集中講座(第一期4回目)
6月12日(火)	第一回編集会議
6月16日(土)	教育実践集中講座(第一期5回目)
6月25日(月)	第三回専任会議
6月26日(火)	~27日(水) フレンドシップ事業野外教育体験活動(香川県立屋島少年自然の家)
6月27日(水)	第二回企画推進委員会
6月28日(木)	第一回研究プロジェクト会合
7月3日(火)	第二回編集会議
7月4日(水)	第二回フレンドシップ事業実施専門委員会

- 7月 5日 (木) 第一回管理委員会
- 7月 18日 (水) ～20日 (金) フレンドシップ事業野外教育体験活動 (国立室戸青少年自然の家)
- 7月 23日 (月) 第四回専任会議
- 7月 25日 (水) フレンドシップ事業野外教育体験活動 (シンポジウム)
- 7月 26日 (木) 教育実践演習第二回全体指導
- 9月 6日 (水) 第二回研究プロジェクト会合
- 9月 14日 (金) 第81回国立大学教育実践研究関連センター協議会
- 9月 19日 (水) 第三回フレンドシップ実施専門委員会
- 9月 24日 (月) 第五回専任会議

寄贈図書 (2012/04～09)

教員の資質向上に係わる調査検討事業(文部科学省)「大学と教育委員会が協働する教員研修の検証・改善に関する研究」研究報告書 平成23年度	鹿児島大学教育学部
教員としての職能形成に資する教育システムの構築と運用 特別経費事業(平成22年度～平成24年度) 平成23年度 中間報告書(2年次)	鹿児島大学教育学部
実践的な力量形成をめざした教員養成と教員研修の接続	鹿児島大学教育学部
研究紀要 第20号 2012	宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター
学部・附属教育実践研究紀要 第10号 2011年3月	山口大学教育学部
学部・附属教育実践研究紀要 第11号 2011年3月	山口大学教育学部
教育実践総合センター紀要 2012.3 第11号	長崎大学教育学部附属教育実践総合センター
富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究 第6号	富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター
富山大学スクラムプランナー学校バリアフリーへの挑戦～2010 報告書	富山大学人間発達科学部・附属学園
「子どもとのふれあい体験」実施報告書	富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター
特別支援教育センター年報 第19回	岐阜大学教育学部附属特別支援教育x
静岡大学教育実践総合センター紀要 No.19	静岡大学教育学部附属教育実践総合センター
渡邊安男先生退職記念誌	渡邊安男先生御退職記念行事実行委員会
研究員紀要 第10号(通巻第20号)	弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
フレンドシップ事業報告書 2012年3月	弘前大学教育学部
教育実践研究紀要 第33号	秋田大学教育文化学部附属教育実践研究センター
第19回 秋田大学教育実践セミナー「現代の子どもを取り巻く問題とその理解」	秋田大学教育文化学部附属教育実践研究センター
第20回 秋田大学教育実践セミナー「呼吸と声のワーク」～授業に役立つ声の出し方～	秋田大学教育文化学部附属教育実践研究センター
臨床相談センター紀要 第十二集	東京家政大学附属 臨床相談センター
教育実践開発研究センター研究紀要 第21号	奈良教育大学 教育実践開発研究センター
教育実践研究 第29号	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
熊本大学教育学部フレンドシップ事業 実施・成果報告書	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
ハイデア 滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 Vol.20 2012	滋賀大学教育学部附属教育実践総合センター
福井大学教育実践研究 第36号	福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター
テクニカル・レポート No.20	福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践ハンドブック-教育実習の手引き- 2012年版	福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター-教育実践ハンドブック編集委員会
独立行政法人 教員研修センター 教員研修モデルカリキュラム開発プログラム採択事業『小1プログラム解消のためのOJTを推進するリーダー養成研修プログラム開発』最終報告書	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
教育研究論集 第2号	鳥取大学 大学教育援機構 教育センター(教職教育部門)
臨床心理学研究 第10号	立証心理臨床センター
教育実践研究 第26号	高知大学教育学部附属教育実践総合センター
教育実践研究 第28号	佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター
教育実践研究 第6号	大阪教育大学教職教育研究開発センター
心理カウンセリングセンター研究紀要 第6号	HCC 花園大学心理カウンセリングセンター
発達障害セミナー講演録 第4号	HCC 花園大学心理カウンセリングセンター
教育実践総合センター紀要 No.29	大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センターレポート 第31号	大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター
教育実践総合センター紀要 第19号	琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
心理臨床事例研究 愛媛大学心理教育相談室紀要 第8号	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター 心理臨床相談室
学校教育実践研究 第18巻	広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター
平成23年広島大学教育学部フレンドシップ事業 ゆかいな土曜日 実施報告書	広島大学教育学部フレンドシップ事業運営委員会
広島文教女子大学 心理臨床研究 第2号	広島文教女子大学心理教育相談センター・広島文教女子大学大学院人間学研究科 臨床心理学コース
教育実践総合センター 紀要 No.11	埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
紀要 第32号	三重大学教育学部附属教育実践総合センター
教区実践研究紀要 第12号	京都教育大学附属教育実践総合センター-機構教育支援センター
学芸実践臨床 研究 教えることとおして自分も育つ	藤沢市教育文化センター
心理相談研究紀要 心理・教育相談室開室10周年記念号 第10号	神戸親和女子大学心理・教育相談室
教科書制度の概要	文部科学省初等中等教育局
香川学習センター20年の歩み	放送大学香川学習センター開設20周年記念誌
研究紀要 第39巻	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
ルーテル学院大学 臨床心理相談センター紀要 2012 Vol.5	ルーテル学院大学 臨床心理相談センター
教育方法学研究 日本教育方法学会紀要 第37巻	教育方法学研究
教員養成カリキュラム開発研究センター 研究年報 vol.11	東京学芸大学教育実践研究センター
教員養成カリキュラム開発研究センター 主催シンポジウム これからの学校教育と教員養成カリキュラム(第12回) 記録集 教員養成をめぐるコッポレーション-大学・学校・教育委員会-	東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター
心理臨床センター紀要 第12号	札幌学院大学心理臨床センター
教育実践総合センター紀要 第35号	宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センター
平成23年4月～平成24年3月「フレンドシップ事業」実施報告書	山形大学地域教育文化学部
教育臨床総合研究	鳥根大学教育学部附属教育支援センター
カリキュラム開発研究 vol.28 No.1 2010.6	岐阜大学総合情報メディアセンター
カリキュラム開発研究 vol.28 No.2 2011.3	岐阜大学総合情報メディアセンター
カリキュラム開発研究 vol.29 No.1 2012.3	岐阜大学総合情報メディアセンター
教育実践総合センター紀要 No.30 2012	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター
1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究(第13年次)	新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室
社会教育施設・団体と連携する「体験的カリキュラム」の開発研究-第15年次研究-	新潟大学教育学部「フレンドシップ実習」研究会
4年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究「研究教育実習」の多様な展開(VII)	新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室
新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施(第9年次)	新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室

大学院教育における実践的カリキュラムの開発(第7年次)	新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室
研究成果報告書サマリー集(平成23年度終了課題)	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
秋田大学教育文化学部 教育実践研究紀要 第34号	秋田大学教育文化学部附属教育実践研究支援センター
秋田大学教育文化学部 教育実践研究紀要 第33号	秋田大学教育文化学部附属教育実践研究支援センター
第20回 秋田大学 教育実践セミナー「呼吸と声のワーク」～授業に役立つ声の出し方～ 2012年3月	秋田大学教育文化学部 附属教育実践研究支援センター

教育実践総合研究(第26号)原稿募集

『香川大学教育実践総合研究』第26号は、**11月30日(金)**原稿受付締切です。
以下投稿要領をご参照の上、奮ってご投稿ください。

香川大学教育実践総合研究 投稿要領

1 (投稿の要領)

香川大学教育実践総合研究(以下「教育実践総合研究」という。)への投稿については、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、この要領の定めるところによる。

2 (投稿の内容)

教育実践総合研究は、教科教育、教育臨床など広く教育実践に関する独創的な研究論文・実践報告、資料(研究ノート、研究動向の紹介など)及び香川大学教育学部附属教育実践総合センターの活動報告などを掲載する。

3 (投稿者)

教育実践総合研究に投稿できる者は、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、香川大学教育実践総合研究編集会議(以下、「会議」という。)が特に依頼した者とする。

4 (投稿原稿の提出方法)

投稿原稿は、完成原稿とし、原則としてワープロで作成し、ワープロ打ち出し原稿2部と、原稿を保存したフロッピーディスク等を会議に提出する。

5 (投稿原稿の長さ)

投稿原稿の長さは、刷り上がり14頁(1頁は21字×42行×2段)以内を原則とし、偶数頁になることが望ましい。超過する場合は、会議の議を経て認めることがある。

6 (刷り上がり1頁目の形式)

刷り上がり1頁目は、和・英文のタイトル・著者名・所属(所在地)、和文要旨(200字)及びキーワード(5語)を含むものとする。

7 (投稿原稿の取り扱い)

投稿された論文等は査読を行い、会議においてその取り扱いを次のいずれかに決定する。査読者については、会議において決定する。

- (1) 採録 (2) 条件つき採録 (3) 返戻

8 (校正)

校正は原則として3校までとし、投稿者において速やかに行うものとする。その際、印刷上の誤り以外の訂正、挿入、削除は原則として認めない。

附則 本要領は、平成16年4月1日から適用する。

附則 本要領は、平成17年12月14日から施行し、平成17年11月9日から適用する。

附則 本要領は、平成19年4月1日から施行する。